



動物レスキュー通信

2015年11月 第30号 (平成27年11月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

寝相で愛犬の気持ち分かる? 何気ない幸せな瞬間をよく観察してみよう

眠りにつくこと、睡眠の最中はとても無防備なもの。そして悩み事があつたり、旅行先などで枕が違つたり、初めての人と一緒の部屋で眠らないといけない状況など、不安な要素があればあるほど、寝つきが悪かつたり、眠りが浅かつたりするものです。それは何も飼い主さんだけではなく、ワンちゃんにも当てはまると言え、ワンちゃんの寝相を観察するとワンちゃんの気持ちや、その時の状況が見えてきます(必ずしも正しいとは言えませんが)。飼い主さんを幸せな気分になせしてくれる寝顔だけでなく、その寝相もよく見てみましょう。

様々な寝相を見る

「横向きに寝ている時」この寝相の時のワンちゃんにとって最も楽な寝相だと言われています。そのため、熟睡度は高く、毛の長いワンちゃんだと起きた時に毛に寝癖がついている、なんて事も大いにありますよね。そして万が一、外から攻撃された際にすぐには反撃態勢になる事が困難なため、かなり安心して眠っていると言えます。

「うつぶせで寝ている時」この寝相の時のワンちゃんはかなり警戒度が高くなっています。先程の横向きとは違い、外から攻撃された際にすぐ立ち上がり、反撃態勢をとる事ができるからです。人間に例えればしゃがんだままの姿勢で眠っているようなもの

です。ワンちゃんが知らない飼い主さんのお友達がお家に遊びに来ていたり、知らない場所に泊まりに行つた時、とても臆病なワンちゃんなどはこういった寝相をしているかもしれません。そういう時はあまりワンちゃんを怖がらせないように気をつけてあげてください。同じうつぶせでも後ろ足をテローンと広げているようでしたら、すぐには立ち上げられませんが、安心して眠ると言えます。

「あおむけで寝ている時」うつぶせとは正反対に、かなりの安心感の現れです。いわゆるおなかを出して眠っている姿ですね。この体制はどう考えても外から攻撃された際にはすぐには立ちあげられませんが、全くの無防備。最近の室内飼いのワンちゃんならではの寝相と言えるかもしれませんね。しかしこの寝相、ワンちゃんの背中には骨がありますので、長時間持続するのは難しいようです。ですから上半身だけ横向きに寝ている場合もあります。

「丸まって寝ている時」犬はもともとあらゆるで丸まった体制で寝ていたと言われていたので、最も自然な寝相と言えます。飼い主さんも子供の頃、何か怖い事があつた時、布団をかぶつて丸まっていた記憶があるのではないのでしょうか?丸まる事によって乱れた心が少しずつ落ち着いてくるためだと言われています。そのため、ワンちゃんが一番熟睡している寝相だと言えます。「狭い場所で寝ている時」リヒコフなど、とても広い場所がたくさんあるのに、わざわざ

ざ部屋の隅こやテーブル、椅子の下などの狭い場所で眠っているワンちゃんは、とても警戒心が強く怖がり屋さんの場合が多いです。狭く囲まれた空間にいる事でワンちゃんは安心できると言われており、ハウスに慣れているワンちゃんはその一番安心して眠れる場所だという事です。

「飼い主さんにぴったりとくっついて寝ている時」甘えたい気分、さみしい気分の時や寒い時などに人に寄り添つて眠ります。人に寄り添うという事は人は必ず寝返りなどで動くので、ワンちゃんにとっては熟睡するのは難しいですが、それでも一緒にいたいというワンちゃんの気持ちが大いにあらわれていますね。又、飼い主さんだけではなく、ワンちゃんの多頭飼いの場合や同居ネコちゃんがいる場合、犬同士、猫と寄り添つて寝ている場合も同じような事が言え、とても安心して眠っている状態です。「何かにあごを乗せて寝ている」人は眠るときに枕を使います。そのほうが支えがあつて快適に眠れるはずですが、ワンちゃんの場合も例外ではなく、ちよつと良い具合を学び、ひじ掛けや少しの段差などにあごを乗せて眠っている事がありません。楽な体制で眠れているという事も、かなり熟睡しているはずですよ。

ワンちゃんの様々な寝相を見てきましたが、疲れている時や、赤ちゃんのように何かをしている途中で眠つてしまつ、という事もありますが、必ずしも全てあてはまっているとは言えませんが、ある程度の気持ちの判断は出来ます。普段は「かわい、癒される」としか見ていなかった寝相も、目的をもって観察してみると、ワンちゃんとの絆がさらに深まるかもしれませんね。その絆の強さが不幸なワンちゃんを減らす一歩へとつながると信じております。

(詩月)